

自利とは利他をいう

税理士法人TACT高井法博会計事務所

代表社員

たかいのりひろ
高井法博

私は、人生の師の一人である飯塚毅先生の創設されたTKCという職業会計人の団体に所属し、そのコンピュータソフトを活用してお客様の各種財務、経営データを出している。そのTKCの基本理念に「自利利他」がある。

飯塚先生は「自利利他」の意味を次に解説しておられる。

「『自利とは利他をいう』とは、『自利と、利他と』といった並列の関係ではなく、『利他』の真っただ中で『自利』を覚知することである。世のため人のため、社会のために精進努力の生活に徹すること、それが本当の自分の喜びであり幸福なのだ。

そのような心境に立ち至り、本物の人物となって社会と大衆に奉仕することができれば、人は心からの生きがいを感じるはずである」

私は、成長していない企業の経営者に共通する特徴は、発想が常に自己中心であることと考える。利己心が強いということは、ものを考え行動するに当たって、常に自己中心的な考え方、行動しか取れず、人物は小さくなる。この発想の構造を相手中心の発想に切り替えることが大発展の原理となる。

それは、利他に徹することがすなわち自利であるという、「自利とは利他をいう」人間の真の生き様に通ずる。大人物といわれる人間は、みなこれを体得している。企業が発展できるかどうかは、いかに社会のお役に立っているかどうかである。

現在の自分の位置や会社の現状も、結局は今までの、自分で判断して行動した結果の集積である。誰のせいでもない。

人生は一回限り、あつという間の短い人生を自分はどう生きるべきかは、重大問題である。「自利利他」の哲学的確信に裏付けられた行動が展開できれば、すばらしい人生が送れると確信する。

誠にいいかげんな生き方をしている自分が、すばらしい方との出逢いによってこのことを確信するに至った以上、毎日を命懸けで勉強し「成功哲学」を身につけ、徹底した謙虚さと自己批判に立って、「正しい人間の生き方」を求め続けたいと思う。